



おがさわら

議会だより

第 112 号

平成 26 年 6 月 8 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



小笠原の急患搬送、災害時の救難のために
ティルトローター機の早期導入を小野寺防衛大臣に要望

平成 26 年第 1 回村議会定例会

| | |
|----------------|----|
| 第 1 回定例会（議案審議） | 2 |
| 一般質問 | 4 |
| 委員会報告 | 8 |
| 予算特別委員会 | 10 |
| 議会の動き・編集後記 | 12 |

第 1 回小笠原村議会定例会
平成 26 年 3 月 12 日、14 日、26 日

【火災予防条例の一部改正】
どこを変えたの？

消防法の改正により、イベントの際の防火管理体制を強化しました。

【村税条例の一部改正】
【国民健康保険税条例の一部改正】
どこを変えたの？

国の法律改正により、関連する村の条例を改正しました。

【後期高齢者医療に関する条例の一部改正】
【陶芸窯使用条例の廃止】
【村立学校設置条例の一部改正】
どこを変えたの？

文言を整理しました。

- 【情報センターの設置及び管理に関する条例の一部改正】
- 【インターネット接続サービス事業に関する条例の一部改正】
- 【霊園条例の一部改正】
- 【火葬場条例の一部改正】
- 【診療所条例の一部改正】
- 【海亀解体場条例の一部改正】
- 【商工観光会館条例の一部改正】
- 【給水条例の一部改正】
- 【地域し尿処理施設条例の一部改正】
- 【浄化槽条例の一部改正】
- 【廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正】
- 【社会体育施設条例の一部を改正する条例】
- 【特産品開発普及センター設置条例の一部改正】

どこを変えたの？

主な改正は、消費税 8% に対応するための条文整理です。

【非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正】

平成 26 年

議 小 第
会 笠 第
定 原 1
例 村 回
会



すべて賛成多数で議決されました。
※分かりやすくお伝えするため、正式名称とは違う表記をしているところがあります。ご了承ください。

専 決 処 分

- 【東京都市町村職員退職手当組合理約の変更について】
- 【東京都市町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の減少及び東京都市町村公平委員会共同設置規約の変更について】
- 【一般会計補正予算（第 4 号）】
- 【和解及び損害賠償額の決定について】

条 例

【交流センター条例の一部改正】
どこを変えたの？

奥村交流センターを書き加えました。

決 議

防衛省がティルト・ローター機を早期導入し小笠原の安心・安全のために運用することを求める決議

賛成 4 (鯉江・池田・一木・高橋)
反対 3 (稲垣・杉田・片股) で可決しました。

主な反対意見

主旨は理解できるが、時期尚早であり慎重に議論を重ねるべきである。

主な賛成意見

議論は積み重ねられており、十分である。

議会が今決断しなければ、先に進めない。

不安材料・疑問点については十分対策を講じていく。

そ の 他

【東京都後期高齢者広域連合規約の一部変更】

【父島辺地及び母島辺地に係る公共的施設の総合整備計画（平成 21 年度～平成 25 年度変更）】

【第 4 次小笠原村総合計画】

総合計画審査特別委員会を設置し、詳しく審議しました。

【父島辺地及び母島辺地に係る公共的施設の総合整備計画（平成 22 年度～平成 26 年度）】

【議員の派遣】

12 月 16 日 国土交通省特別地域振興官と意見交換。
同日海上保安庁長官を訪問。

12 月 17 日 公明党代表を訪問。(村長同行)

12 月 18 日 国土交通大臣訪問。

島嶼町村議会議長会定期総会、島嶼町村一部事務組合定例会、島嶼町村会、島嶼町村議会議長会との合同会議に出席。

2 月 21 日 都町村議会議長会役員会定期総会出席。

予 算

【一般会計補正予算(第 5 号)】
【国民健康保険特別会計補正予算(第 4 号)】
【簡易水道事業特別会計補正予算(第 4 号)】
【宅地造成事業特別会計補正予算(第 2 号)】
【介護保険(保険事業勘定)特別会計補正予算(第 2 号)】
【後期高齢者医療特別会計補正予算(第 1 号)】
【浄化槽事業特別会計補正予算(第 1 号)】

主に、決算見込みによる補正を行いました。

【新年度予算】

平成 26 年度小笠原村一般会計ほか新年度予算
予算特別委員会を設置し、詳しく審議しました。
くわしくは 10P へ

同 意

【教育委員会委員の選任】

上床 祝 氏
佐藤 文彦 氏
綱島 修 氏

3 名の選任を同意しました。

意 見 書

小笠原村母島に郵便局の設置を求める意見書
小笠原村に簡易裁判所の設立等を求める意見書

出 張 報 告



佐々木 幸美 議長

村民の声を村政に問う!!

一般質問

3 月定例会



第 1 回定例会は、6 名の議員から 16 件の一般質問がありました。

一木 重夫 議員

村と議会と執行部の違い

一木議員 「小笠原村」とは村民、村議会、村長（部局）、行政区域で構成される。村内（村議会）で議論をしている時に、

村長部局が自身を「小笠原村」と呼ぶことがあるが、自身の立場の言い回しを改めるべきではないか。

村長 改めて原則を踏まえ、庁内で共通認識を持ち対応したい。

教育行政について

一木議員 ①教育委員会の会議にもっと傍聴者が来るように広報すべき。

②教育予算の作成時に村長部局は教育委員に対して事後報告にならないように報告する。

うに、上手に連携を図るべきだ。

③教育予算の構成比が類似団体と比べて低い。教育費の経常経費の 5% シーリングを見直す考えは。

④児童・生徒数が増えているが今後の対応は。

⑤弁当屋を活用した宅配サービスを活用し希望者に対して学校給食を実現してはどうか。

教育課長

①今後村民だより等により開催日時をお知らせしたい。

②教育予算は村議会の議決後に報告して承認を得ていた。今後は、村長からの求めに応じて教育委員会を開催し、結果を村長に報告する。

③何が何でも 5% シーリングということではない。児童・生徒も増えてきており柔軟に対応したい。

④ 20 名想定 of 教室ではかなり窮屈で手狭。特別教室も少なく、中学校では事務室もなく、学校運営

上支障を来している。小笠原小・中学校の校舎及び体育館の全面改築を視野に入れた将来構想の検討をし、平成 31 年度以降の振興開発事業において全面改築を実施したい。

新小笠原諸島振興開発特別措置法について

一木議員 平成 26 年度から五カ年の小笠原諸島振興開発特別措置法の法案が今、国会で議論されている。村長の見解は。

村長 第一条の目的規定に定住促進が追加され、振興開発の基本理念、国・地方公共団体の責務の条項が新設された。通訳案内士、旅行者代理業が特例で実施できる規定や、定住促進に伴い生活産業分野にわたる多くの配慮規定が盛り込まれた。改正法案を生かした村の振興に取り組んでいきたい。



鯉江 満 議員

世界自然遺産登録後の問題・対策を問う

鯉江議員 小笠原諸島が世界自然遺産に登録され、自然を守る対策を行って三年近く経過した。効果の反面、問題も出ていると聞く。①アカガシラカラスバト保護の猫対策で増加したネズミや、②オガサワラオオコウモリによる農作物被害、③さらに新たな外来種を増やさない対策について伺う。

兄島侵入のグリーンアノールは三種類以上だった。自然保護で空港建設を断念した兄島だけに責任は重い。東京都でやっている定期船乗降時の泥落としマットも啓発宣伝活動程度としか感じられない。新たな外来種対策でどんな対応を考えているのか。

自然管理専門委員 管理計画に基づく各外来種ごとの取組みを計画し自然再生事業を行い成果があらわれてきたが、外来種に抑制されていたネズミの繁殖や、保護で増えたオガサワラオオコウモリによる被害が地域の課題となってきた。①ネズミ



は根絶例はないため、農業被害、環境衛生の個別課題で対応策をしていく。

②オガサワラオオコウモリは連絡会を次年度早々立ち上げ、全体の枠組みも議論を進めていく。③科学委員会のもと新外来種の侵入・拡散防止に關しワーキングを設置し、意図的・非意図的な持込みの可能性の洗出しや対応策を検討の予定だ。グリーンアノールの侵入には環境省、関係行政機関全てが大変責任を感じている。侵入確認以来、村役場、村議会からも国に要望書を出し、各行政機関も現地対策検討会を三十三回、内地の科学委員会との合同ワーキングを六回開催し、年間四十週近く兄島に渡って対策に取り組んできた。現在、

高密度地域から北部への侵入は抑えられている。泥落としマットはウズムシ防止対策だが、意識づけや啓発宣伝の意味合いは強い。今後建設予定の父島、母島の遺産センターには滅菌薫蒸施設を併設し、属島への外来種拡散防止策拠点とする。

絶滅危惧種の数の目標は

鯉江議員 ①絶滅危惧種の適正な個体数の目標は。②移入種の定義の基準は何か。③農業者の意見等を取り上げる地域連絡会議は機能しているのか。

自然管理専門委員

①適正な個体数の考え方はとっていないが、千組を超えれば自然繁殖の対象になり、目標値としている。保護政策により数が増えてきた段階で個体管理の考え方が出てくる。

②移入種は、もともと小笠原に生息していなかったが、人間の居住により持ち込まれ繁殖したものと捉えている。③平成24年から村民意見交換会を開催している。意見は関係団体等で検討し、対応できる課題は対応策を打ち出し、ほかの課題はワーキングを立ち上げ、検討結果を村民にフィードバックし、地域連絡会議に報告する形を考えている。

片股敬昌 議員

清瀬トンネルの照明増を

片股議員 安全確保に照明を増やしてもらいたい。建設水道課長 トンネル中央部に照明十三基を増設する工事を近々に行う。

村の自殺防止対策は

片股議員 自殺防止のセミナーや専門相談機関へつなぐ人材養成もあるが、小笠原村の取組みを伺う。

村民課副参事

自殺対策に關わる人材育成目的に、管理職や関係職員等対象のゲートキーパー養成講習会を実施したほか、本土の精神神経科専門医による診療や指導、講習等を実施してきた。精神科事業は今後も継続実施し、防止環境整備に努めたい。



外来種のアカギ、モクマオウ対策について

片股議員 外来種のアカギ、モクマオウ対策について

自然管理専門委員

①環境省、林野庁による薬剤での立枯れや伐採処理後、搬出による植生破壊を避けるため、そのまま残して自然に還す。ただ、シロアリへの影響から住宅地近傍で控え、シロアリの定期的調査も求めている。②搬出可能な伐採木の活用を林野庁が行い農業での活用を期待されている。

児童虐待対策について

片股議員 大きな社会問題だ。村はどう取り組む。

村民課副参事

平成20年に關係機關を委員とする要保護児童対策地域協議会を設置し個別事例に対応してきた。年に一回、東京都による巡回相談や検査も行ってきた。村民課は事務局として關係者との連携を図っていく。

村長

心豊かに暮らせる社会をつくるのが問題に対し大きな答えを出せる。新しい総合計画もその思いを込めて策定した。

具体的な生ごみ対策は

片股議員 ①村長所信に循環システム構築でごみ減量、分別を進めるとあるが、具体的計画は。焼却による減量化に問題があるのか。②生ごみ再利用への支援は。③海ごみ処理費用はどんな分担か。

建設水道課副参事

①母島では実施しているが父島で、小口排出を主体に家庭などの生ごみ分別資源化を計画している。人口の集中する小笠原住宅

高橋 研史 議員

沖繩の負担軽減と硫黄島の存在について



高橋議員 米軍基地が集中する沖繩では、基地の存在に反対し危険を除去したい思いも強いようだが、沖繩の現状をどう考えるか。米軍駐留負担を国民全体が分かち合うことを重要とする安倍総理の国会答弁もある中、硫黄島利用を沖繩の基地負担軽減につなげる考えもあるが、それはどう捉えるか。在日米軍再編で硫黄島はどんな位置づけか。

の基地負担軽減が図られるべきかと思う。米軍は、厚木基地から岩国基地へと基地を移転する空母艦載機の近隣の訓練場所選定を求めているが、それが硫黄島でいいとは考えていない。できるだけ協力したいが、いまだ帰島できない旧島民の心情や遺骨収容の続く状況を考えないといけない。訓練場所が選定されれば今の硫黄島の暫定利用はなくなるが、この受入れが負担軽減になっているとの考え方の立場にはない。暫定利用だから旧島民にも理解を得ているものだ。

硫黄島は今後どうなるか

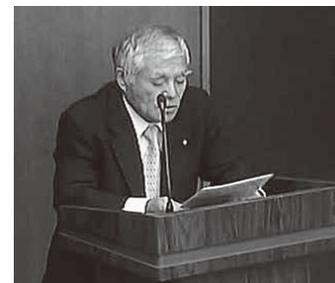
高橋議員 硫黄島にある自衛隊の基地を村はどう捉えているのか。また、旧島民の意思確認はどうしているか。太平洋諸島については防空識別圏が今までなかったが、それを新たに設定するため硫黄島にリーダーをつくる動きもある。硫黄島については基地等の拡充の方向に動くのではないか。硫黄島の今後を見据え、

何か準備を始めることを考えているなら伺いたい。

村長 硫黄島は復帰後、一部は米軍、自衛隊に活用され、日本の南方海域の拠点や訓練基地として重要な位置にある。村としては国の防衛政策には協力するが、拡充は望まない姿勢で基地を容認してきた。旧島民については、全国組織の硫黄島帰島促進協議会と、村内に小笠原村在住硫黄島旧島民の会があり、この2団体を通じて意見を確認していく手順をとっている。小笠原村の周囲、また日本を取り巻く環境は近年大きく変わってきている。拡充は望まないながら、国などから新たな申入れがあったときは、村議会での議論や、旧島民の意見も伺いながら対応していくことになる。策定した総合計画案の中には十五年先の硫黄島の土地利用についても入っている。遺骨の収集期間の合意を得られぬ前に能動的なことはできないが、その後のことも考えておくことや、何らかいアプローチがあったときは対応を時間を置かないで判断する必要がある。我が国を囲む社会環境の変化に敏感に、情報収集等を怠ってはいけない立場にあると思う。

稲垣 勇 議員

母島のシロアリ対策は



稲垣議員 昨秋、報告のあった後の状況と対策について伺う。蝙蝠谷仮置き場は1・2月に東京都が主体で対策を行ったようだが、その結果等の説明はどんな内容か。

建設水道課副参事 村は10月にシロアリ対策事業を実施した。蝙蝠谷ベイ周辺で新たな営巣箇所は発見しなかった。3月にも行っている。東京都の説明会では蝙蝠谷仮置き場について、平成24年に巢の摘出と生殖虫処理、25年は分巢摘出と処理を行ったが、3カ年は継続してモニタリングを実施し対策を講じていく。長浜トンネル周辺や以北の対策を継続し南下させない。伐採木は東港仮置き場に持ち込み、南へ移動させていない。今年6月の羽アリの飛立ち状況を聞き取り今後の対策を考えたいと説明があった。小笠原村では、長浜トンネル由来で蝙蝠

谷谷に発生したものを集落に定着させないの策を講じていく。

保健や医療専門職確保を

稲垣議員 看護師や保健師、介護士、保育士等の確保が厳しく、母島は保育士不在のまま、ケアマネジャー確保、高校生からの育成も含め状況の説明と今後の対応を伺う。

母島支所長 母島の保健事業は父島の保健師の出張、診療所や役場支所職員への支援で実施している。

村長 小笠原村は母島からのイエシロアリ根絶の方針でいる。外来種対策等を行う関係機関と調整しながら後手にならないよう対処していく。シロアリ駆除の新技法等の情報収集も行っていく。

村長 人材確保、育成はできる手をまず打ちたい。

杉田 一男 議員

航空路開設のために

杉田議員 村長所信の重要課題三点について伺う。①航空路開設の停滞をどう打破するか。②日本各地の自然遺産観光が尻すぼみ傾向だが、登録後の検証を振興にどう生かすか。③今後の農業振興は。

村長 ①今後は航空路開設に向け今まで以上に東京都に働きかけたい。三年以上開催のなかった小笠原航空路協議会再開が目前の目標で、協議会で策定された小笠原航空路PII実施計画の実施、まだ具体的議論がない東京都の三候補地案を材料に再開の調整中だ。まずは舛添新知事に、村民悲願の航空路を理解いただく努力をしたい。②観光振興では、世界遺産登録前から増えた観光客数の維持が肝要だ。交通が不便で一時期に一旦押し寄せることがなく、減少傾向は他と異なっている。観光は総合産業であり、来島者数増は地域活性化の源だ。観光に直接かわるサービス業だけでなく、一次産業や地域住民の連携、理解のもと、観光客



が満足し高評価を得られるよう努力したい。③村の認定農業者に十二名、東京都の就農者制度でも五名が認定されている。こうした農業者が活躍できる環境づくりを東京都や農協と連携していくことにより農業振興、そして観光へと連携していく。一層推進していきたい。

杉田議員 空港開設のネックに工事費がある。膨大な数字が言われているが、伊豆七島についてはどうか。今年度の調査の計画は、節目の返還五十年までの村長の一層の活動を議会も後押ししたい。

村長 候補地三案の建設費は示されていない。場所設定、滑走路の長さなど実現のため越えるべき課題の中で、建設費は最

後のハードルに近く、今答えられる数字はない。村を取り巻く環境は随分変化してきた。仮に滑走路ができれば、防災対策、国境警備、海洋權益確保等に多大な利益を生む。村民が安心・安全に暮らせる村づくりに向け、交通アクセスは航空路に絞ってやっていきたい。

総務課企画政策室長 伊豆七島の空港は整備の位置づけに変遷があるが、工事費は調べたい。来年度の航空路調査予算が認められれば、村の案の概算費用をはいじてみた。

観光、農業振興について

杉田議員 観光客増に向け新企画等はあるか。本土拠点の小笠原村観光局の活動内容は、認定農業者、新規就農者は父島と母島に何人いるのか。

産業観光課長 本土での土目にかかるイベントや、旅行会社や来島観光客への説明会等を行う観光局は多忙で、来年度、職員一名増を予算化した。本土での営業・宣伝事業、ネット活用の情報発信事業を強化したい。村の認定農業者十二名は母島十一名、父島一名、東京都の認定就農者五名は父島三名、母島二名の状況だ。

議会出張報告

平成 26 年

2 月 17 日～2 月 27 日

村議会は、村の悲願であり、まず空港建設に向けて、離島航空路調査のため 2 月 19・20 日に、長崎県北松浦郡小値賀町において小値賀空港を視察しました。小値賀空港は村の目指す空港と同様の第三種空港、離島航空路であることと、地元小値賀出身の衆議院議員北村誠吾先生の推薦もいただき視察地に決めました。

小値賀町は、長崎県五島列島の最北端に位置し、西海国立公園の中にあります。古くは遣唐使船の航路でもありました。大小 17 の島から成り(有人島は 7 島)、火山群島でなだらかな海岸丘陵地は黒松と芝生に覆われ、和牛が草をはむ風景がいたるところで見られ、のどかで自然豊かな島です。人口は 2,700 人、行政機関をはじめとした町の中心は小値賀島にあり、漁業、農業の第 1 次産業が主で、近年は自然体験を組み込んだ観光産業にも力を入れ、民泊も盛んに行われています。

小値賀空港は、小値賀島の東側、海に面した海岸大地と埋立によって、長崎県 5 番目の県営空港として昭和 60 年に開港した STOL (短距離離着陸用) 空港で、海の見える海浜空港です。この空港は、標高 7・7 m の平坦な低地に建設可能であったことから、同規模の STOL 空港



長崎の教会群とキリスト教関連遺産が、平成 19 年に世界文化遺産暫定リストに登録され、現在、その本登録を目指して小値賀町(構成資産の 1 つを有する)も長崎県と共に積極的な運動を展開しておりますが、世界自然遺産の小笠原からも大いに応援いたします。

としては総事業費約 30 億円と、経済的な建設費で完成しています。

昭和 54 年に適地調査が開始、57 年に基本計画策定、59 年工事着工、昭和 60 年に供用開始されました。滑走路は、800 m で小型機のみ利用が可能で、供用開始当時から年間約 900 便、旅客数は 6,000 名程度でしたが、高速船等の海上交通の便が向上したことにより、平成 18 年からチャーター便(5 人乗り)のみの運航に切り替え、年間 20 ～ 150 便が小値賀・福岡間に運航されています。

九州本土から比較的近い位置にある島のため、高速船の技術が進展したために、便数も多くさらに多くの港をつなぐ船舶の需要が増し、現在では「海の国道と言え海上交通網の整備」が小値賀町にとって一番必要なものとなっており、この点は、超遠隔離島の小笠原村とは異なる点と言えます。

視察によって、STOL 空港であっても中規模離着陸が可能とするためには、滑走路強度が必要であること、小笠原において過去に計画された



空港の建設コストは適正か? 航空路以外の輸送手段の発達が見込まれるか等の問題点も明らかになりました。

小値賀町では、立石議長をはじめ町議会の皆様と、離島ならではの悩みや課題、またその解決について意見交換をさせていただきました。また、診療所の視察により、医療スタッフ確保の積極的な取り組みも参考となりました。小笠原からは、長崎世界遺産登録の参考にと、世界遺産登録前の各種対策、遺産効果、エコツーリズム、ダイビング等の現状を説明しました。

| | |
|------|--|
| 委員会 | |
| 活動報告 | |

平成26年3月13日開催



総務委員会

委員長 稲垣 勇
 副委員長 片股 敬昌

【世界自遺産について】

・経過説明がありました。

問 捕獲されたアノールは
 どう処理されるのか。

〈片股副委員長〉

答 冷凍して内地に送り、
 オス・メス、何を食べて
 いるのか等の調査を行って
 いる。

問 外来種対策は多くある
 ため、母島の保全セ
 ンターには林野庁の職員を常
 駐して欲しい。執行部の考え
 は。

答 林野庁の職員の常駐
 は改めて検討してい
 きたい。
 〈一木委員〉

【防災道路の整備につ

問 防災計画における道路
 の位置付けは、どの時
 点で行うのか。

〈池田委員〉

答 新たなハザードマッ
 プが出たので、早期
 に整備したい。

【沖ノ鳥島・南鳥島につ

・沖ノ鳥島南鳥島の岸壁など
 国の港湾施設の工事について
 の情報の報告がありました。

【小笠原諸島振興開発特

問 区域外の高校への支援、
 配慮規定とは、どのよ
 うなものか。父島は対象になら
 ないのか？
 〈一木委員〉

答 母島の生徒が父島の
 高校や内地の高校に
 就学する時は支援の対象とな
 るが、父島の生徒が内地の高

校に就学した時は、父島に高
 校があるので特別な支援がな
 い。現状の補助制度では難し
 いところもあるが、課題とし
 て考えて行かなくてはならな
 い。

問 奄美の振興事業では航
 空運賃や航路の運賃低
 減化をうたっている。小笠原
 は議論があったのか。

答 奄美は時間をかけて
 長期に活動を続けて
 きたという経緯がある。今後
 の法改正に照準を合わせ、考
 えていきたい。
 〈池田委員〉

【母島簡易郵便局問題に

提案 母島在住のみ
 易郵便局であるために、公金
 納付ができず非常に不便をし
 ている。公金納付ができるよ
 うな環境を整えるべく、意見
 書としてまとめ提出すること

に決めました。
 その後、本会議において稲
 垣総務委員長により上程さ
 れ、意見書が可決されまし
 た。

【急患搬送と災害時搬送

の改善について】
 〈一木委員・鮫江委員・
 高橋委員提案〉

提案 急患搬送と災
 害時の搬送改
 善を図るため、ティルトロー
 ター機の早期導入を防衛省に
 求める議題が提案されまし
 た。

その後、本会議において一
 木議員、鮫江副議長により上
 程され、決議が可決されまし
 た。

【簡易裁判所の設置検討

と遠隔居住者向けの裁判
 システムの充実につい
 て】
 〈二木委員・池田委員提案〉

提案 小笠原村民が
 司法サービス
 を受けるには、本土に滞在し
 なくてはならず、費用的にも
 精神的にも負担が大きい。ま
 た、遠隔居住者向けの裁判シ
 ステムの普及など、技術の革
 新が進んでいる。小笠原に簡
 易裁判所の設立及び遠隔居住
 者向けの裁判システムを普及

することをもちこんだ意見書
 を提出することに決めまし
 た。
 その後、本会議において一
 木議員、池田議員により上程
 され、意見書が可決されまし
 た。

することをもちこんだ意見書
 を提出することに決めまし
 た。
 その後、本会議において一
 木議員、池田議員により上程
 され、意見書が可決されまし
 た。

ティルトローター機

回転翼を可動させて垂
 直・短距離で離着陸を可
 能にした飛行機。ヘリコ
 プターに比べて速度が早
 く、航続距離が長い等の
 利点がある。

決議

住民生活に直接かわ
 る緊急、重大な事項に関
 し、議会の意思を対外的
 に表明するために行う議
 決のことをいいます。

意見書

法律に基づき、地方公
 共団体の公益に関するこ
 とに関して、議会の意思
 を議会の議決で意見とし
 てまとめた文書のこと
 です。意見書は内閣、国
 会、関係行政庁に提出で
 きます。

特別委員会報告



総合計画審査
特別委員会

委員長 高橋 研史
副委員長 杉田 一男

【これまでの経緯】

平成26年3月12日・13日・14日開催

25年5～6月
村民アンケート実施

12月～26年1月

パブリックコメントの募集
その後、総合開発審議会に提出され、答申をうけました。

小笠原村議会では、特別委員会を設置して第4次総合計画を審議しました。

次の意見をつけて本会議に報告し、賛成多数で可決されました。

意見(要旨)

・以前のものより村の将来像がより具体的に示されたものとなっている。長期15年となっているが、各種施策の実行に当たっては、あくまでも

早期達成を推進すべきである。

・また、毎年度の実行計画の評価は、内部組織の評価だけでなく、客観的評価方法の導入も検討すべき。

・今後は、村をとりまく諸情勢に機敏に対応した、綿密な実行計画を策定し、施策を推進していただきたい。

・「国益に貢献する役割を担っていく」との指針が示されたことは特筆すべき事項であり、「心豊かに暮らし続けられる島」を目指す我々の精神性の指針とも言える。

以上の意見を踏まえ、総合計画の達成に向けた最大限の努力を図られたい。



委員長 一木 重夫
副委員長 片股 敬昌

平成26年3月13日開催

【NLP(夜間離着陸訓練)を含むFCLP(空母艦載機着陸訓練)について】

問 今、沖繩の負担を減らす。硫黄島はどのような動きになるのか。

答 硫黄島は毎年防衛省から状況をきき、暫定な受け入れをしている状態だ。硫黄島連絡調整会議などで関係者から直接訊ねた方が良いと考える。

〈高橋委員〉
硫黄島は毎年防衛省から状況をきき、暫定な受け入れをしている状態だ。硫黄島連絡調整会議などで関係者から直接訊ねた方が良いと考える。

【遺骨収集帰還事業について】

・12月以降今日まで開削調査、遺骨収集通常派遣、特別派遣が実施され、平成25年度の収容が終了した。

【訓練について】

・L C A C訓練12月11～13日実施報告がありました。

【墓参及び慰霊巡拝について】

・旧島民の墓参(都主催)、硫黄島慰霊巡拝事業(国主催)、日米硫黄島合同慰霊追悼顕彰式の日程について報告がありました。

【その他】

・平和祈念公園事業の実施について、医療課及び本委員会委員の硫黄島行政視察についての報告がありました。

小笠原空港開設。
航路改善特別委員会

委員長 池田 望
副委員長 一木 重夫

平成26年3月13日開催

【空港開設について(経過報告説明)】

・陳情先の報告、ATR機を導入しようとしていた航空会社が自己破産したこと、東京都が進めている調査についての報告がありました。

問 調査だけでなく現実的なことをもって推し進めていただきたい。

答 航空路協議会を1日でも早く開いてもらい、意見交換会を重ねて行きたい。

問 今、航空路で何よりも優先すべきは舩添知事を小笠原に呼ぶこと。舩添都知事に小笠原のファンになってもらって、航空路について発言をしてもらいたい。

〈一木副委員長〉

答 同意見で、お願いをしている。細かい配慮をもって進めたい。

【航路改善について(経過報告説明)】

・12月9日航路検討委員会
・12月20日離島航路地域協議会小笠原航路部会幹事会
・1月22日東京都離島航路地域協議会小笠原航路部会幹事会出席

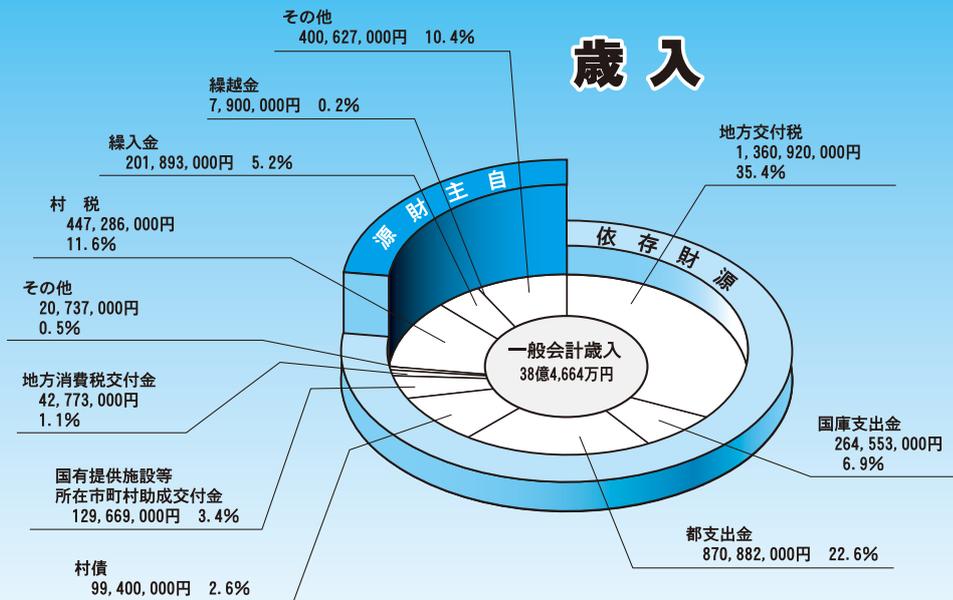
その他、おがさわら丸運行スケジュール、おがさわら丸・ははじま丸の燃料油調整金について報告がありました。

【その他】

小笠原海運から島民割引の拡充は新船が就航し、安定した黒字収支となったから行うとの回答があったとの報告がありました。



【平成26年度一般会計当初予算】



※一般会計38億4664万円でスタート

平成26年度 予算特別委員会

委員長 片股 敬昌
 副委員長 杉田 一男

《主な審議》

◇歳入◇

問 定住促進をうたっているのに、村営住宅が使えないというのは何故か。住環境がよくなるようにお願いをしたい。

〔一木委員〕

答 今の建物は、老朽化がすすんでおり、使用できなくなった時点でやめる。定住政策は住宅政策だけではないと考えおり、長い間任んでいただけ的综合的な視点で考えている。

問 たばこ税として貢献しているにもかかわらず、喫煙者は肩身が狭い思いをしている。

〔鮎江委員〕

答 都内と比べ、村内は意図的に喫煙者を排除しているような感じを受けない。

問 環境分野のふるさと寄附金は基金に積んだままにしないで、素早く執行して寄附者に報告すべき。

〔一木委員〕

答 一旦基金に計上し、最終的な金額が確定してから、6月の補正で使っていく。村が行なっている事業に賛同して頂いた寄付なので、趣旨にそった事業にあてていく。

◇歳出◇

問 沖ノ鳥島ツアーが企画されたが、西之島でもツアーを企画してはどうか。

〔一木委員〕

答 前向きに検討したいと考えているが、まずは民間のかたが動いていただけると、応援しやすい。

問 新規事業の急患搬送内地宿泊助成とは、具体的にどのようなものか。

〔池田副委員長〕

答 急患搬送により内地医療にかかった方(付添い含む)の新島嶼会館の宿泊費助成が主な内容だ。

その際、小笠原は他の島しよの方より長い滞在日数が必要なため、本人負担3000円で泊まれる日数を村独自で増やすもの。

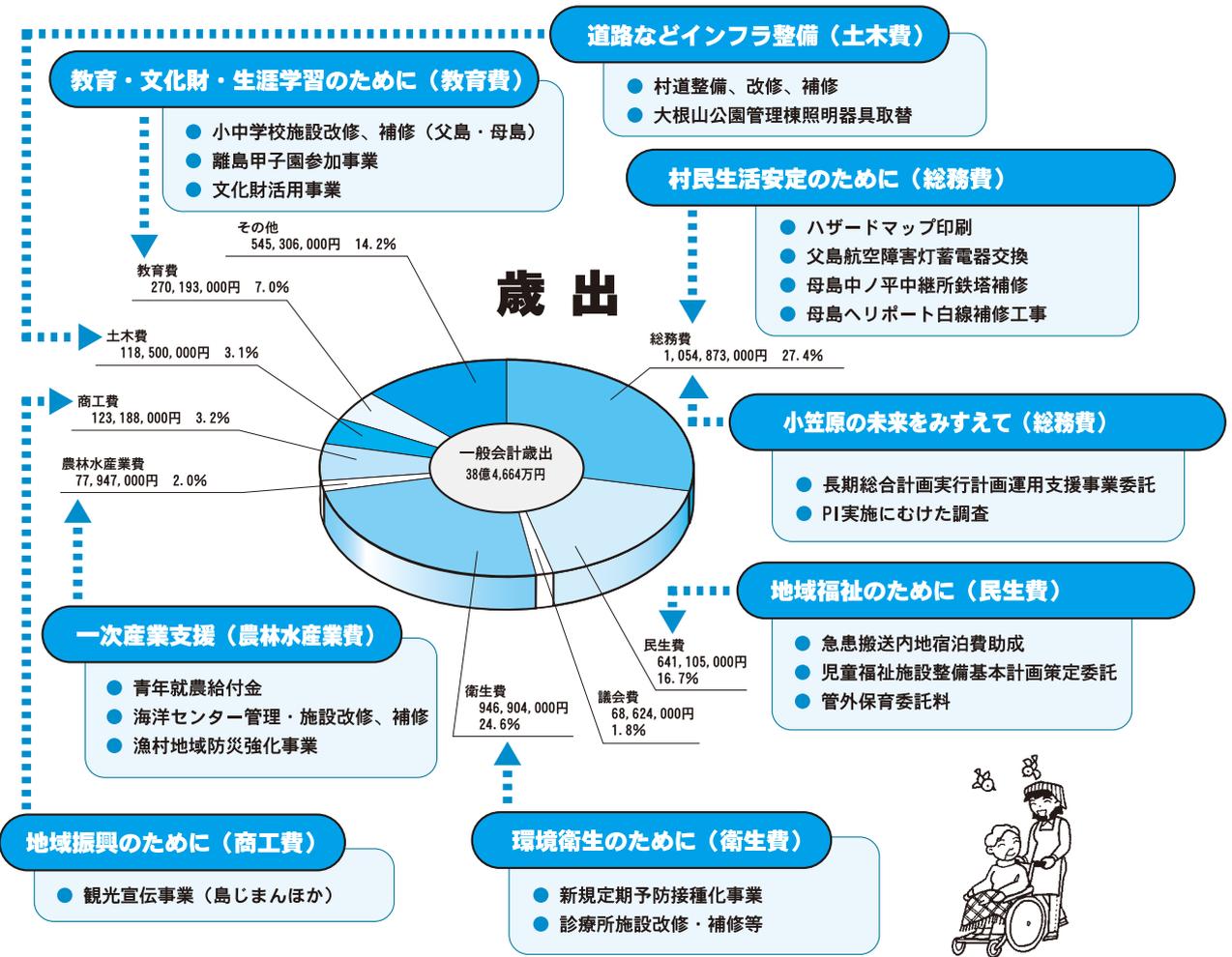
問 スタッフ採用業務委託とあるが、具体的な内容は、また、小笠原だけでなく、他の伊豆諸島を含めた広域的な組織で医療・介護職の確保が図れないか。

〔池田副委員長〕

答 医療スタッフの確保は、広報してもなかなか難しい。今回新たに民間の派遣会社に斡旋を依頼する。派遣会社を通じて人材が確保された場合、その手数料を支払う仕組みだ。

広域的な確保については、一部事務組合など、各島の町長村長が集まった際に話題にしている。小笠原より困っているとこもあり、各島の事情が違うため、なかなかまとまり切れない。

意見 現場の医療スタッフが見ている求人広告



問 は、ナースセンターとハローワークだ。この2つに求人掲載をしてもらいたい。
答 〈一木委員〉

問 漁村地域防災力強化事業とはどのようなものか。
答 〈鮎江委員〉 都の補助事業で、今回は昨年耐震化診断で問題となった父島漁協の建物を対象としている。

問 関連して、オイルタンクがあるが、津波予測図では危険なのではないか。
答 〈高橋委員〉 津波ではなく地震の耐震化事業であり、今回の事業には入っていない。

問 観光局1名増員の理由は。
答 〈杉田委員〉 1名増員し、統括担当を作り、観光協会との連携強化を努めていく。また、営業活動など集客に向けた対策強化を図りたい。

問 西町駐車場整備とあるが、どのようなものか。
答 〈杉田委員〉 西町にある小さい方の国有地を、公共駐車場とする計画だ。

問 奥村運動場再整備設計の内容とは。
答 〈高橋委員〉 ゲートボール場に簡易な休憩施設を作る。また、グラウンドの体育用品コンテナの建替を考えている。

問 計画のなかにグラウンドの日除けはあるのか。
答 〈片股委員〉 簡易だが、コンテナ建替え同様に日除けも設置する。

問 ふるさと寄附金は今後、どのように予測しているか。また、広報など増収に努力をしていただきたい。
答 〈池田委員〉 平成24年の開始当初は、おおむね100万円とみていたが、25年度はそこまで達しない見込みだ。PR宣伝をやらなくてはと考えている。

問 新規事業の青年就農給付金とは何か。
答 〈稲垣委員長〉 45歳未満の認定農業者で、計画など書類を提出し認められると、給付金が支給される国の制度。支給条件や提出しなくてはならない書類などがあるので、産業観光課で相談を受付けている。

問 4月から消費税が上がリ、今までより諸経費に3%上乘りかかるが、補助団体への補助金には考慮されていないのではないか。
答 〈高橋委員〉 補助をうける団体は、村の補助金だけが収入という団体ばかりではない。それぞれの団体の収入を勘案し、全体の中で村が足りないところを補助していくという考えだ。次回10%改正は検討課題としていきたい。

議会の動き

< 3 月 >

- 5 日 小笠原高校卒業式
- 11 日 全員協議会
議会運営委員会
- 12 日 第 1 回定例会本会議
- 13 日 総務委員会
硫黄島調査特別委員会
小笠原空港開設・航路改善特別委員会
総合計画審査特別委員会
- 14 日 第 1 回定例会本会議
総合計画審査特別委員会
- 17 日 硫黄島連絡調整会議 (父島)
- 19 日 小笠原中学校卒業式
日米合同慰霊追悼顕彰式
硫黄島連絡調整会議 (母島)
- 22 日 母島小中学校卒業式
- 24 日 小笠原小学校卒業式
予算特別委員会
- 25 日 予算特別委員会
- 26 日 第 1 回定例会本会議
- 28 日 例月出納検査

< 4 月 >

- 8 日 小笠原小入学式
母島小中入学式
小笠原中入学式
小笠原高入学式
- 9 日 都議会民主党政調会視察
- 25 日 奥村交流センター見学会
- 24 日 例月出納検査

< 5 月 >

- 14 日 都町村議会議長会役員会臨時総会
議員講演会・意見交換会
- 16 日 小笠原諸島振興開発審議会
- 24 ~ 25 日 島じまん 2014
- 27 日 第 2 回定例会告示
- 30 日 例月出納検査

- 議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約をしたりして掲載しています。
- ぜひ、議会を傍聴してみてください。
- また、会議録のお問い合わせはこちらへどうぞ。

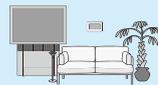
■ お問合せ先 ■
小笠原村議会事務局

TEL 04998-2-3118 FAX 2-3208

次回の定例会は

6月中旬開会

の予定です



※村役場・福祉センター・母島支所のテレビで議会中継をご覧になれます。ぜひご利用ください。

編集後記

今回の定例会は、毎年実施している予算特別委員会の他に、第 4 次小笠原村総合計画を審議する特別委員会も設置して審議を行いました。さらに、総務委員会では委員提案の議題が 3 つも上程され、活発な議論が繰り広げられました。本会議では総務委員長と議員提案の意見書が 2 本、議員提案の決議書が 1 本上程され、本会議でも活発な議論がされて、すべて可決となりました。村民の代表者であり、小笠原村の最終的な意志決定権をもつ村議会が、積極的に意志を表明することはとても大切です。本定例会はここ数年で最も活発な議会になったと思います。

(一木)

議会だより編集委員
高橋 研史
一木 重夫